

鶴舞音読広場

八事の蝶々

つるまおんどくひろば  
やごと やまかいわい  
八事山界隈は塩釜神社や興正寺などがあり、むかしから、  
はる はなみ あき もみじが 春には花見の秋には紅葉狩りの名所として行楽客が多く訪  
れましました。この行楽客のみやげ用にと八事の蝶々が作られま  
した。

やごと ちようちよう  
八事の蝶々は、紙と竹ひご細工の簡単なおもちゃですが、  
ひらひらとした姿がかわいらしくて人気がありました。色  
も、赤・黄・青・緑・紫の五色が使われていてあざやかでした。  
そしてこの蝶々は、八事でしか買えないものでした。人力車  
に乗り、それを見せびらかして帰る姿は人々を羨ましがら  
せたそうです。

おほ きょうどがんぐ おな  
多くの郷土玩具と同じように、幕末のころから主に武家  
やし族が内職として作っていたようです。芝居の小道具から  
ヒントを得たとも言われています。

せんご すがた  
戦後に一度姿を消しましたが、天白区にお住まいだった  
じよせい しょうわごじゅうねん へいせいじゅうよんねん  
女性が昭和五十年ごろに復活させました。平成十四年には  
ほぞんかい たあ やごと ちようちよう  
保存会が立ち上がり、八事の蝶々づくりを伝えています。

『東海の郷土玩具』 亀井鏡 中日出版社 1979年

『わたしたちのふるさと 八事』 名古屋市立八事小学校 1991年

『愛知百科事典』 中日新聞本社 1976年

『昭和区の歴史』 愛知県郷土資料刊行会 1999年

名古屋市天白区のホームページ